



1 道徳授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年9月）では、改善の具体的事項として「指導の重点や特色の明確化」「道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方について自覚を深める指導の重視」「道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進体制の充実」等が挙げられています。また、「第3章 道徳」の「第2 内容」の冒頭に「道徳の時間を^{かたみ}要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする」という前文が加えられ、道徳教育において「道徳の時間」が中核的な位置を占めることが、一層明確に示されています。

そこで、中学校道徳の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

Point 1

体験活動を生かした授業

体験活動を生かした道徳の授業を行っていくためには、年間指導計画の中に体験活動を適切に位置付けることが大切です。その上で、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動など豊かな体験活動や情操をはぐくむ活動を一層充実させ、他の教職員とのティーム・ティーチング等の多様な指導方法や学習形態を工夫することが求められています。また、伝統と文化にかかわる体験や福祉に関する体験等、道徳の時間以外で行われた体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話し合いに生かし、学習につながりを持たせ、生徒の関心を高めることも重要です。さらに、体験活動での活動内容と似た資料を道徳の時間で活用し、それぞれの指導の効果を高めることも必要です。

Point 2

魅力的な教材の開発と活用

教材を開発する際には、生徒が自ら課題に取り組み、自己や他者との関係を深く見定め、生きる希望や勇気を見いだすことができる等の要件を踏まえる必要があります。その中で、地域や郷土に素材を求めたもの、今日的な課題について深く考えることができるもの、中学生の悩みや心の揺れ、学級や学校生活における具体的事柄や葛藤^{かっとう}等について深く考えることができるもの、といった新しい視点に立った資料を選定し、生徒が感動を覚えるような魅力的な教材を開発していくことが大切です。

Point 3

表現する活動の充実

道徳の時間のねらいに迫るために、個々の生徒や学級の実態に応じて、自分の考えを書いたりそれを基に討論したりするなど表現する活動を充実することが大切です。その際、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかといった人間としての生き方にかかわって、生徒同士や自分自身との対話が深まるよう、表現する活動の内容や場面の工夫が一層求められます。

2

授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

- ◆第3学年 内容項目：2－(2)人間愛・思いやり，関連項目：4－(2)よりよい社会の実現
 単元名 「共に生きる」 **Point 1** **Point 3** を生かした授業

1 実践のねらい

社会における人間関係の希薄化により，自己中心的な言動が見られる場面が少なくありません。その中で，他者への配慮と深い思いやりを大切にし，よりよい社会の実現に貢献できる生徒を育てるための効果的な指導を行うことが求められています。そこで，これまでに原爆資料館の見学や被爆体験を聞く広島平和学習などを通して「共に生きる」ことについて考えてきたことを踏まえ，障害のある人の生き方を学ぶことにより，思いやりを大切にし，進んで社会とかわり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てたいと考えました。

本実践では，体験活動，道徳の時間やその他の学習における相互の指導効果を高められるよう図1のような単元指導計画を作成しました。今回は，自分の考えを言語化しやすくするための手だてとして「はい・いいえカード」「ロールレタリング」を活用しました。 **Point 3**

また，体験活動を通して道徳性をはぐくんでいけるよう，これまでの学習や特別活動及び総合的な学習の時間との関連を持たせた指導を工夫しました。 **Point 1**

2 学習指導の実際

1 「共に生きる」ことを考えさせる単元指導計画 **Point 1**

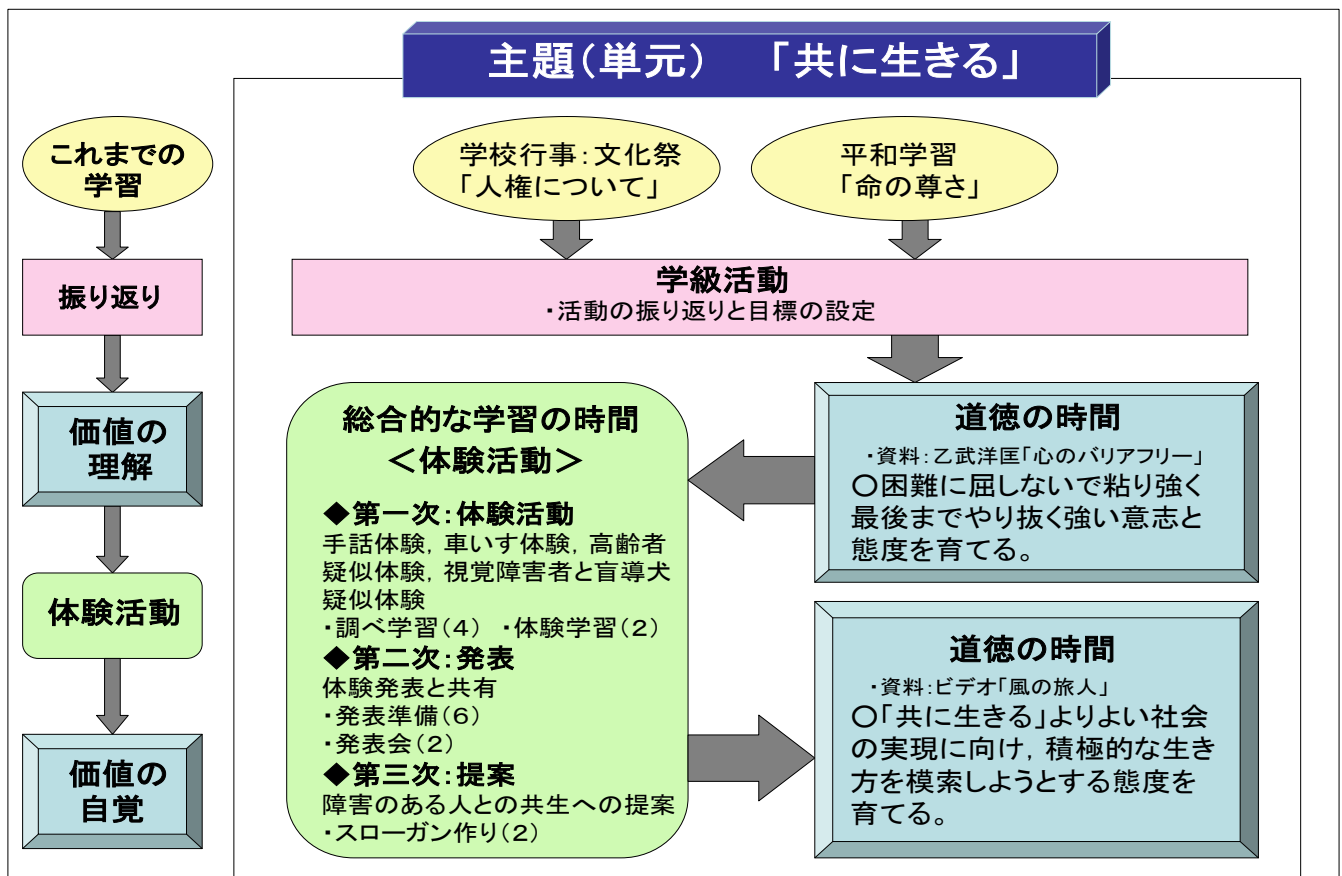


図1 体験活動を生かした単元指導計画

2 単元指導計画（全19単位時間）

	主な学習活動（ ）内の数字は時間数	指導上の留意点
学級活動	◇今までの活動を振り返る。(1)	◆「共に生きる」ことについて考えてきたこれまでの取り組みを振り返り、自己の目標を持たせる。
道徳	◇心のバリアフリーを考える。(1) ・資料 「心のバリアフリー」 おとけひろただ 乙武洋匡 出典「五体不満足」講談社文庫 【内容項目 2-(2)】	◆日々の生活経験を振り返り、互いの思いを小グループで話し合わせることで、困難に直面してもあきらめないで粘り強くやり抜くことの大切さに気付くことができるようにする。
総合的な学習の時間	第一次 Point 1 ・四つのグループに分かれて体験する。 〈調べ学習(4) 体験学習(2)〉 第二次 ・体験したことを発表し共有する。 〈発表準備(6) 発表会(2)〉 第三次 「障害のある人との共生」(1) ・バリアフリー社会の実現に貢献できる私たちになるためのスローガンを作る。	◆地域の手話グループ、身体障害者、視覚障害者を講師に迎え、体験を通じた気付きや学びを大切にさせる。 体験の想起 個別の体験を言語化し、発表することで、他者と分かち合えるようにする。 ◆体験学習や発表会での体験を基に話し合わせ、バリアフリー社会について考えを深められるようにする。 体験の共有 体験や発表を基にした互いの気付きや学びを共有させる。
道徳	◇共に生きる社会について考える。(2) ・資料 ビデオ「風の旅人」 Point 3 (本時) 【内容項目 4-(2)】	◆人間理解や他者理解を深め共に学ぶ楽しさや自己の成長に気付き、「共に生きる」よりよい社会の実現を目指すことの大切さを実感できるようにする。
表現し考えを深めるための工夫 「はい・いいえカード」(図3)により自分の考えを持たせ、ロールレタリングを通して他者の立場に対する理解を深めさせた上で、自分の考えを深められるようにする。		

3 授業展開例

(1) 本時の目標

「真の自立」について考えることにより、互いに思いやりの心を持ち、「共に生きる」よりよい社会の実現に向けて積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる。

(2) 資料

ビデオ「風の旅人」(30分) 原作・監修：牧口一^{まきぐちいちじ}二
制作：(株)電通テック関西支社

〈内容〉

ベッド式車いす(図2)を通りがかりの人に押しもらいながら旅を続けた実在の重度身体障害者(故・宇都宮辰範氏)の生き様を、同じく障害者である牧口一^{まきぐちいちじ}二氏の思い出としてドラマ化した作品。障害者理解にとどまらず、人間にとって「自立」とは、私たちが生きやすい社会とは、自由な生き方とは、等を問いかけている。

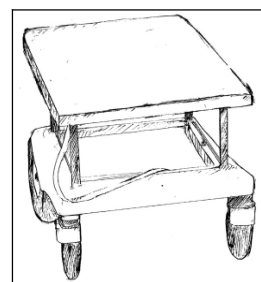




図2 ベッド式車いす
(イメージ)

(3) 本時の指導計画（全2単位時間）

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
<p>【導入】 宇都宮さんについて知る。</p>	<p>○宇都宮さんの紹介をします。</p> <p>○あなたが宇都宮さんの立場なら旅をしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい 旅行に行ってみたい。Point 3 でも、一人では困ることが多い。 ・いいえ ベッド式車いすでは移動に困る。じっとしている方が楽だと思う。どのように見られるかが心配。 	<p>○自分たちが行った体験活動を想起させながら、宇都宮さんの写真を基に、説明する。</p> <p>○「はい・いいえカード」(図3)を用いて自分の立場を明確にした上で意見を交流するよう促す。</p> <div style="text-align: right;">  <p>図3 はい・いいえカード</p> </div>
<p>【展開】 ビデオ「風の旅人」を視聴し、宇都宮さんの生き方について考える。</p>	<p>○どんなことが心に残りましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに助けってもらって旅をした心の強さ ・人は一人では生きられないという言葉 ・自分の経験を人に伝えていく姿 <p>○宇都宮さんは、なぜ道行く多くの人の手助けを求めたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護者を伴って旅をするより、多くの出会いを求めていたから。 ・人との出会いを大切にしたいから。 ・多くの人に障害者の立場を分かってもらいたかったから。 <p>◎「人は一人では生きられない」という宇都宮さんの言葉の意味を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は支え合って生きている。 ・人のつながりが大切だ。 ・互いに協力し合って生きることが大切だ。 <p>○あなたが宇都宮さんの立場なら旅をしますか。もう一度考えてみましょう。</p> <p>○あなたの考えを宇都宮さんへの手紙という形で表現しましょう。さらに、宇都宮さんからの返事も想像して書いてみましょう(図4)。</p>	<p>○視聴した感動を大切にし、その感動を小グループ内で交流させ、前向きな主人公の生き方への共感が高まるようにする。</p> <p>○生徒の心に残った部分を取り上げ、そこから宇都宮さんの生き方への考えを深められるようにする。</p> <p>○多くの人と接することで交流を図りたいという宇都宮さんの思いに触れさせる。</p> <p>○自分の生活を振り返り、自分も多くの人に助けられながら生活していることに気付かせる。</p> <p>○導入時の自分の考えを想起し、比較させることで、自分の考えの変容に気付かせる。</p> <p>○ロールレタリングを取り入れることで、深く自己の内面を見つめることができるようにする。</p>
<p>【終末】 本時のまとめをする。</p>	<p>○「総合的な学習の時間」に考えたスローガンを見直してみましょう。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>○「総合的な学習の時間」の活動の写真とスローガンを提示し、これまでの学習を基にして、「共に生きる」ことの意味への理解を深めさせる。</p>

1 本時の授業の成果

本時の授業に取り入れた「はい・いいえカード」には、すべての生徒が意見を表明できるという利点があることを実感しました。このカードを効果的に活用するためには、途中で意見を変更しても構わないし、正しい答えというものはない、などと気軽に取り組める雰囲気づくりをした上で利用することが大切だと思いました。また、「ロールレタリング」は、自己の内面や、自己と他者との関係を深く見つめた上で考えを書かせるため、自己理解や他者理解を深める上で効果があることが分かりました（図4）。

また、授業後の感想からは、宇都宮さんの「本当の自立は、他者の力をどれだけ借りられるかにかかっている」という考え方に触れ、「障害のある人の生活は、物理的な障害を取り除き、手助けをすればよい」という最初に抱いた考えを、「共に生きる社会を実現するためには、バリアフリー、つまり心の壁を取り除くことが最も大切である」という考えに深めることができたことがうかがえました。

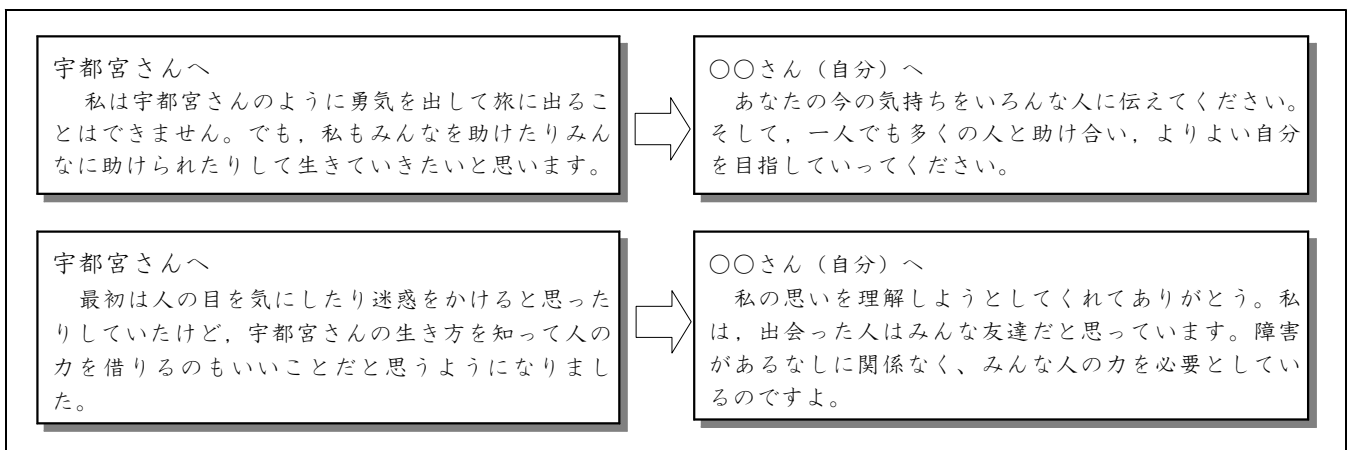


図4 生徒が書いたロールレター（一部抜粋）

2 今後の課題

今回の実践では、「共に生きる」という視点を学習の中心に位置付け、他の学習や道徳の授業と体験活動とを密接に関連付けた指導に取り組みました。それにより、体験に照らした自分の考えを積極的に発言したり、他者への思いやりの心を言葉で表現したりすることができる生徒が増えていきました。生徒は、様々な活動を通して多くのことを意識的、または無意識的に感じたり考えたりしているものです。そこで今後は、それらの体験に関連する資料を基に討論する活動を取り入れるなど、多様な指導方法を工夫し、単元指導計画に基づいた道徳授業づくりを行っていくことが大切です。

実践上の留意点

「はい・いいえカード」や「ロールレタリング」は、自分の考えを言葉で表現するための有効な手段ですが、使用する場面の設定や内容の精選など、ねらいとの関連を吟味した上で使用することが大切です。「ロールレタリング」は、生徒自身の素直な心情の吐露から始まります。そこで、生徒が本音で語り合える学級での温かい人間関係を深めておくことが大切です。

3

これからの方向性

道徳教育の一層の充実を図るために、各学校の特色や実態及び課題に即した全体計画の作成は大変重要です。その中での道徳の時間の位置付け、また、全教師の協力によって道徳教育を充実させていくための道徳教育推進教師の役割についても、十分に認識を深めていただきたいと思います。これからの方向性として、大切にしたい三つの内容を次に示します。

指導計画

道徳教育の基本方針を具現化するための留意点

全体計画の中軸は、学校の設定する道徳教育の基本方針です。したがって、全体計画は、これを具体化する上で、学校として特に工夫し、留意すべきことは何か、各教育活動がどのような役割を分担するのか、家庭や地域社会との連携をどう図っていくのかなどについて総合的に示すものでなければなりません。

具体的な留意点として、全教師の協力・指導体制を整えること、具体的な取り組みを明確にし、教師の意識の高揚を図ること、各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにすること、保護者及び地域の人々の意見を活用すること、学校間交流、関係諸機関との連携に心がけること、計画の実施及び評価・改善のための体制を確立することなどが挙げられます。

他教科等との関連

道徳の時間を道徳的価値を深める要とする工夫

豊かな体験は、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に資するものです。これらの体験活動を通して生徒が気付く様々な道徳的価値は、それらが持つ意味や大切さなどについて深く考える道徳の時間を通して、より確かな道徳的実践力として定着します。

また、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等における道徳教育を補充、深化、統合し、要としての役割を果たす道徳の時間の特質を踏まえ、ねらいに含まれる道徳的価値の側面から他の教育活動との関連を把握し、事前の指導や事後の指導などを工夫することが重要です。例えば、社会科における「身近な地域」の学習、保健体育科におけるチームワークを重視した学習、総合的な学習の時間における異文化理解の学習との関連などにおいて、学習の時期や教材を考慮したり、相互に連続させたりすることで、指導の効果を一層高めることができます。

指導体制

道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

道徳教育推進教師の役割として、指導計画の作成の推進役になることはもちろん、授業を実施する上での悩みを抱える教師の相談役になったり情報提供をしたりして支援することや、道徳の時間に関する授業研究の実施、授業の公開や情報発信などを中心になって行うことが挙げられます。また、教材や図書準備、掲示物の充実、資料コーナー等の整備などの環境づくりに関しても、全教師が分担して進められるよう呼びかけをしたり、具体的な場をつくったりすることなどが考えられます。

道徳の時間の指導を計画的に推進し、また、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、学校の全教師が協力しながら取り組みを進めていくことが大切です。道徳教育推進教師が全体を掌握しながら、全教師の参画、分担、協力の下に道徳教育が円滑に推進され、充実していくように働きかけていくことが望まれます。